

●勝瑞駅から勝瑞城館跡までは徒歩約10分

しょうずいじょうかんあとしゅうへんちざ 勝瑞城館跡周辺地図

室町時代～戦国時代に阿波の中心として栄えた守護町勝瑞に点在する史跡を紹介します。



① 国指定史跡 勝瑞城館跡

平成13年1月29日に国史跡に指定されました。調査の終了した所から順次整備が行われています。

勝瑞城跡は、天正10年(1582)に長宗我部氏の勝瑞侵攻に備えて築いた防御施設だと考えられている曲輪です。現在も土塁の一部と濠を見ることができます。

勝瑞館跡では発掘調査により大規模な濠に囲まれた区画が確認され、枯山水庭園や池泉庭園、それに伴う建物跡等が検出されています。

竜音山 見性寺



臨済宗妙心寺派の寺。享保8年(1723)に竜音寺と併せ現在の場所に移りました。三好氏歴代の墓とされる4基の五輪塔(左から順に長治・実休・元長・之長)は町指定有形文化財です。現在の建物は発掘調査後に建てられたものです。

② 阿関山(法輪山) 延寿院 観音寺

「阿州三好記大状前書」に名前が見られる寺の一つ。境内の祠には、「僊人(せんじん)さん」と呼ばれる石像が祀られています。江戸時代初期に、讃岐より移転してきた観音寺の土盛の為、裏の池を掘った際に出土したといわれており、三好氏の守護神であったものだと、戦国期に勝瑞でキリスト教を布教していた、ポルトガル人の宣教師像だという説もあります。

③ 渡り ④ 浜(地名)

「渡り」とは通称です。試掘調査で、北側に落ち込む砂層が確認されました。堤防が湾曲して入り込んでおり、簡易な港湾施設の存在が想定されます。また、この周辺に円徳寺があったといわれています。

⑤ 伝 持明院跡

通称、知妙庵と呼ばれています。この五輪塔と宝篋印塔は、近くの水田から掘り出されたもので、町の有形文化財に指定されています。



⑥ 寺町(地名)

通称寺町と呼ばれる地域です。『阿州三好記大状前書』(『阿波国徴古雑抄』所収)には勝瑞に27の寺院が記されており、現存しているのは見性寺・観音寺と、発掘調査で確認された正貴寺跡があります。

⑦ 伝 見性寺跡

天正年間の争乱で荒廃しましたが、江戸時代の延宝年間に再建されました。その後、勝瑞城跡に移転するまでこの場所に見性寺があったといわれています。

⑧ 若宮神社跡

天正5年(1577)、三好長治が今切川の戦いに破れ自刃し、その妻は逃亡したものの、追っ手に殺されました。これを不憫に思った地元の人々が祠を造り、ねんごろに供養をしたのが若宮神社といわれています。昭和35年に南陽神社に合社されました。

⑨ 地福寺

地福寺は、鎌倉時代初期の文治年間(1185～1190)創建とされる真言宗のお寺で、ぽっくり寺の名で親しまれています。境内には細川澄賢の墓と伝えられる永正18年(1521)の銘が入った五輪塔があります。

⑩ 撫養石の石積み

このあたりに古くからある家の地盤に、洪水対策として石積みをしてある所があります。これに使われている撫養石(和泉砂岩)は加工しやすく、四角い面を作って積み上げているのが特徴的です。この付近で「天正」の銘がある石積みを見つけた方は勝瑞発掘現場事務所まで是非御一報願います。

⑪ 馬木の道標

大麻比古神社への参拝道である大麻街道に建てられた道標で、右方向へ指した手の下に「大麻宮 霊山寺」 側面には「文政十三庚寅 五月建立」と刻まれています。大麻街道は古くから主要街道だったと考えられています。



⑫ 南陽神社

永正5年(1508)に細川澄賢が阿波入国とともに祀ったとされ、山王権現社でした。後にいくつかの神社と合社され、昭和37年に南陽神社に改名されました。秋に行われる祭りの獅子舞は、町の無形民俗文化財に指定されています。

⑬ 西町(地名)

『藍住町史』には「勝瑞の全盛時代には人馬が多く往来した処か」とあります。道路工事の際には、五輪塔や陶磁器類などの遺物が出土したそうです。

⑭ 大道

江戸時代に蜂須賀氏が整備した「阿波五街道」の一つである讃岐街道は、当初はこの道筋であったと考えられています。

⑮ 阿弥陀橋の板碑

板碑とは、鎌倉時代中期から造立が流行した供養塔で、石でできた卒塔婆のことです。この板碑は、室町時代のもので緑色片岩でできており、刻まれている梵字は「キリーク」と読み、阿弥陀如来を表したものです。

⑯ 妙蓮寺橋

この付近の田畑の地下には石畳があり、多くの土器が出土するといわれています。『阿州三好記大状前書』(『阿波国徴古雑抄』所収)に記された「妙蓮寺」のあった地と考えられています。

⑰ 北千間堀

発掘調査で、護岸の痕跡(濠幅は14m程度)とともに、16世紀中葉の遺物が出土しました。このことから、三好氏が自然の川を整備した水路であることが考えられています。

⑱ 正貴寺跡(国指定史跡)

正貴寺は七堂伽藍をもつ大きな寺院で三好氏の祈願寺であったといわれています。

このあたりの小字名を「正喜地」ということや、周辺には五輪塔が散在すること、また調査地付近に「寺門」の屋号を持つ家もあることなどから、従来より正貴寺跡であると言いつてられていましたが、発掘調査により、大量の瓦、五輪塔、礎石建物跡、雨落ち溝等が発見され、その伝承が裏付けられました。その他に鍛冶関連遺構や、亀の文様が彫られた硯なども発見されています。



藍住町教育委員会 社会教育課(勝瑞発掘現場事務所)

〒771-1273 徳島県板野郡藍住町勝瑞字東勝地61-1

電話(088)641-3466 展示室開館時間 8:30～17:15(土・日・祝日は休館)



サイトへはこちらから